

第 14 回 赤十字東北ブロック研修会報告

秋田赤十字病院 猪岡 文之助

昭和 60 年 7 月 20 日～21 日の両日、秋田担当で秋田県労働福祉センターで、日赤検査技師会長・吉岡先生を迎えて研修会を 50 数名の参加を得て開催し、その概要を報告します。

第 1 日目 20 日（土）

16 時～17 時 30 分まで糖尿病の歴史のなかで検査の果たした役割と題して、当病院第 3 内科部長・宮下正弘先生の講演。

18 時からは当病院長・竹本先生の出席を得て懇親会を催し、各施設の会員相互の親睦を深めた。

第 2 日目 21 日（日）

8 時 30 分～9 時まで業務連絡、61 年度は八戸赤十字病院が第 15 回ブロック研修会を担当することが了承された。

引き続き 12 時まで輸血に関する問題点として、シンポジウム形式で、各病院 6 施設からそれぞれ指定した演題で論議なされた。演題は次のとおりである。

1) 1 年間の成分製剤使用状況について

八戸 米内山泰子

2) 1 年間の不規則性抗体検出について(種類の数)

盛岡 菅原礼子

3) 血液製剤の発注、受注、保管、受渡し等について(時間内時間外)

石巻 鈴木研一

4) 時間外交差適合試験の頻度

仙台 佐藤 誠

5) ABO 式血液型、Rh 式血液型の 1 年間の数

福島 菅野和典

6) 緊急時における交差適合試験

秋田 横山一二美

助言者：秋田赤十字血液センター 庄司節子

助言者：福島赤十字血液センター 佐藤勝敏

司会：秋田赤十字病院 船岡謙彦

輸血の問題は各学会、研修会等でも積極的に論議されているが、副作用をはじめとし広範囲にわたり問題が多く、3 時間のシンポジウムで解決することは不可能といっても過言ではないと思います。例えば、私たちにとって最も重要な交差適合試験の方法においても、完全な方法は今だ確立されておりません。今回、血液センターの助言を得ながら長時間にわたって論議し結論は今後にもちこされたが、この分野を発展させるためには、①できることなら輸血部の設立、②相談できる臨床医の存在、③血液が一刻も早く患者に届くシステムづくり、が急務ではないかと考えます。そのためには小さな研修会でも大事にし、職場にもちより、「よりよい輸血業務とは」について皆で考えていく姿勢が必要と今回の研修会を通じて強く感じさせられた。

第 16 回日赤臨床衛生検査技師会 東部ブロック研修会に参加して

日本赤十字社医療センター 村田 松雄

東部ブロック研修会が、昭和 60 年 6 月 22 日(土)、23 日(日)の 2 日間、水と緑の街として知られる前橋にて開催されました。日本一旨い水を市民に供給している前橋のシンボルは給水塔だそうである。駅を降りると、広場では白い水を吹き上げる噴水がさまざまな表情をみせていた。ブロンズ像の噴水である。やはり水の街に相応しい情景である。

研修会は、毎年当番病院の思惑を随所に生かし楽しい雰囲気で開催されている。今回の研修会は佐藤先生の配慮で、以前と比較して様相を異にした新しい試みがなされた。その部門別テーブルディスカッションは、前年、前橋市において第 21 回関東甲信臨床衛生検査学会が群馬県臨床衛生検査技師会の担当で実施され、テーブルディスカッションにおいて各パートで司会を務める等の要職を預かった人が多くを占め、有意義なものにした。同じ赤十字の旗の基で仕事をしている者同士が、互いの職場での検査の技術や方法の検討、器械類の精度、検査伝票や成績の管理、廃棄物の処理、その他、緊急検査や外注検査の問題点をめぐり等々職場の規模や組織が異なるにせよ、他の病院を含む学会や研修会では話題にならなかったり、話題にできないくらいことでも身近な問題となり討論にも熱気を感じさせた。反省会においても、この試みが高く評価され、他ブロック研修会に推奨できるものであった。わがブロックでは、来年度へと引きつがれていくことになり、大変喜ばしく思っています。

Para メディカルから Co メディカルへ、「21 世紀を担う検査」という群大の土屋純先生の講演は、今も胸中にあります。随所での宣伝もさることながら豊富なスライドを使い、ユーモアを含んだ力強い口調での講演はわれわれに夢と希望のプレゼントでもあった。群大医療技術短大では、5 年前から米国のパシフィックユニバシティとの夏休みを利用しての医療技術研修会を行っている。更に、現状での臨床検査技師と四年制大学とのカリキュラムの比較、専門領域では大卒以上の単位を習得している事実、そして、現在ある 20 余の医療短大の 60 年中に成ると思われる大学への昇格、米国の教育制度とその内容へと講演は進む。そして、Para メディカルから Co メディカルになるには、そのような形にするためにも先頭に立って努力している。米国では、ナースが副院長であったりしている現実や、看護学部が医学部とは関係なく独立している現状など、あまりにも日本と隔りのある実情を聴き、その基は Co メディカルとして実在するからである。医師に従属した Para メディカルの Co メディカルであるべき 21 世紀の将来を展望したお話でありました。

土屋先生が申されたことですが、Co メディカルの Co は、孤立の孤にならぬためにも、また、ならさないためにもわれわれは日頃から背後にある患者を見失うことのないよう、21 世紀のその日まで努力しようではないか。

土屋先生の興味ある講演に感謝致します。

日本赤十字臨床衛生検査技師会会則

第 1 条 この会は日本赤十字臨床衛生検査技師会と称し、事務所を会長の委託する施設の検査部内に置く。

第 2 条 この会は会員の学術、技能の向上研究、相互の福祉並びに親睦を図るを目的とする。

第 3 条 この会は第 2 条の目的達成の為、次の事業を行う。

1. 学術講演並びに講習会等の開催
2. 調査研究
3. 会誌の発行
4. 会員の福祉厚生
5. その他必要な事項

第 4 条 この会の会員は、全国の赤十字病院（診療所、産院、血液センターを含む）に勤務し臨床衛生検査技師の資格を有するもので、規定の入会手続きを完了したものである。

第 5 条 この会に入会しようとする者は、入会申込書に所定の事項を記入し、会費年額 1,200 円をそえて会長に申込みものとする。

第 6 条 この会を脱会しようとする者は、会長に届出なければならない。

第 7 条 この会に次の役員を書く。

会長 1 名、副会長 2 名、常任幹事若干名、幹事若干名、会計 2 名、会計監査 2 名。

第 8 条 この会の役員は総会において選出する。役員の任期は 1 カ年として留任を妨げない。

第 9 条 この会に特別会員を置くことが出来る。特別会員は幹事会の推薦により総会で選出する。

第 10 条 この会に幹事会の推薦により顧問を置くことができる。

第 11 条 会長は会を代表し会務を統轄する。

第 12 条 副会長は会長を補佐し、会長事故ある時これを代行する。

第 13 条 幹事は会長の命をうけ、会務を掌理する。

第 14 条 この会に次の会議を置く。

1. 総会
2. 臨時総会
3. 幹事会
4. 常任幹事会

総会はこの会の最高機関であって 1 年に 1 回開催する。

臨時総会は、幹事会において必要と認めたとき開くことができる。又、会員の 3 分の 1 以上の要請があった時、開催しなければなら

ない。

幹事会は、総会につぐ決議機関であって会長、副会長、常任幹事、幹事、会計をもって構成する。幹事会は年に 1 回以上開催し、常任幹事会は随時必要な時開催する。

第 15 条 総会は会員の過半数の出席により開催し、決議事項は出席者の 3 分の 2 以上の同意により決定する。可否同数の場合は議長がこれを決定する。

第 16 条 この会の会計年度は、8 月 1 日より翌年 7 月 31 日とし、決議の上会員に報告承認を求むるものとする。

第 17 条 この会の経費は、会費その他をもって充てる。

第 18 条 会費は毎年 4 月に 1 カ年 1,200 分円を前納する。（49 年度より）

但し、納入した会費は事由の如何を問わず返還しない。

又、必要と認めた場合は幹事会の決議を経て臨時に徴収する事ができる。

第 19 条 会計監査は、年 1 回以上会計の監査を行い総会に報告する。

第 20 条 この会則に定めていない事項が発生した時は、幹事会の決議を経て処理し、総会の承認を得るものとする。

第 21 条 この会の変更は総会の決議によるものとする。

第 22 条 この会則は昭和 50 年 5 月 2 日より実施する。（昭和 52 年 12 月 20 日一部改正）

附 則

1. 第 4 条の施設に勤務している無資格者で本会の趣旨に賛成し入会する者は、会員として認めることができる。

2. 特に事情のある場合、会長の承認により、会費の分納を認める事ができる。

3. 会計細則は別に定める。

4. 本会に賛助会員をおくことができる。賛助会員は本会の趣旨に賛同し、会長の承認を得たものとする。但し、総会への出席及び議決権を有さない。

5. 本会に会員として永年在籍し、会の発展に功績のあった会員を表彰することが出来る。

原 稿 募 集

下記の要領で原稿を募ります。研究発表及びキット、機器の紹介など、会員相互の情報交換の場として大いに御活用ください。

用 式

1. 用語は現代仮名づかい、口語体、横書きで400字詰原稿用紙を利用して句読点を切り、わかり易い文章とする。外国語はタイプ又は活字体としてください。
2. 表や図は大きさB5判以下とし、図は墨又は黒インクで直ちに凸版にできるようにする。また、図表には各別個に番号を付してください。
3. 写真は白黒で大きさは原則として手札判大とする。

原稿の種類

〔研究〕 原稿用紙15枚以内、図表4個まで、共同発表の場合は筆頭者が会員であること。

〔キット、機器の紹介〕 新しく開発された試薬、器械、器具の検討及び使用経験など、原稿用紙15枚以内、図表4個まで。

〔北から南から〕 勤務先の施設を中心として、その地方の気候風土、名所旧跡などをおりませ、検査部の概要をまとめたもの。原稿用紙5枚以内、図表写真2個以内。

〔文献紹介〕 海外の文献から、最近の検査法について要訳したもの。原稿用紙5枚以内。

〔私の工夫〕 日常業務から考えついたアイデア、器具の工夫、改良を加えたもの。原稿用紙5枚以内、図表写真2個まで。

〔ひろば〕 もっともリラックスした記事を書いたもの、例えば、意見の交換、見聞、体験（失敗談を含む）、感想、同好の士の募集、随想などを思うにまかせて書いてください。原稿用紙3枚以内。

〔原稿の採否その他〕 原稿掲載の採否は編集部で決定します。その際、多少の字句を訂正することがあります。

掲載順序は受付順とします。原稿は返却しません。別刷は実費で申し受けます。

〔原稿の締切〕 特に締切をもうけません。投稿順に載せますからどしどしご投稿ください。

〔原稿送り先〕 (〒124) 東京都葛飾区立石 5-11-12 葛飾赤十字産院検査部

日本赤十字臨床衛生検査技師会総務編集部 西岡光夫宛

編 集 後 記

“貴様と俺とは 同期の桜” 低音でビブラートの効いた 鈴木兼五郎先生の 歌はもう聞かれない。そして、日本赤十字本社 村上邦夫部長、日臨技会長の藤沢武吉先生、大阪日赤の辻慶三先生と次々と悲しい出来事の一年間でした。若くして、これからの御活躍が期待された人達でした。

今回の編集は鈴木兼五郎先生、辻 慶三先生の追悼、そして、田中 昇先生の国際細胞学アカデミー Maurice Goldblatt 細胞学賞の受賞についての 特別寄稿をそれぞれの先生にお願いした。

研究論文は 6 題にとどまり、特別寄稿がなかったら発刊を断念していたであろう。おや、毎回同じ編集後記だ。



日本赤十字臨床衛生検査技師会誌

「日 赤 検 査」 第 17 号

昭和 60 年 11 月 20 日 印刷

昭和 60 年 11 月 25 日 発行

発行所 日本赤十字臨床衛生検査技師会

東京都大田区中央 4-30-11

大森赤十字病院 (〒143)

発 行 者 吉 岡 稔

編 集 者 西 岡 光 夫

印 刷 人 納 谷 正 夫

東京都渋谷区渋谷 1-10-1 (八千代ビル)

TEL 03-499-5191

印 刷 所 株式会社 近 代 出 版

新刊書・既刊書のご案内

新装版

微生物学の一里塚

Milestones in Microbiology

T.Brock 編著／藤野恒三郎 監訳

A5判 380頁 定価2,400円(送料300円)

微生物学の発展に寄与した研究者の文献を収集し、現在の確立された微生物学理論が過去からどのように発展してきたかを明らかにするとともに、研究業績、実験の実際がどのようなであったか、当時の学会の反応、論争がどのようなものであったか解説をまじえながら興味深く身近に伝えている。

微生物学に関心のある人、研究者にとって示唆に富んだ内容である。

構成は、自然発生説と発酵、病気の微生物説、免疫学、ウイルス学、化学療法学、一般微生物学の6つの部門で成っており、それぞれの研究領域で発展をもたらしたものの、教育価値のあると考えられるものを中心に収集されている。

■主要目次■

自然発生説と発酵 リューベンフック、スパンツァーニ、カニヤル・ドゥ・ラ・トゥール、リービッヒ、バストゥール、チンダル、リスター、プフナー／病気の微生物説 フラカストロ、ゼンメルワイズ、リスター、コッホ、エールリッヒ／免疫学 ジェンナー、バストゥール、メチニコフ、ベーリング、北里柴三郎、ホルデ／ウイルス学 レフレル、フロシュ、ペイエリンク、デルル、スタンレイ／化学療法学 エールリッヒ、フレミング、ドマーク、ウッズ／一般微生物学 グラム、ペトリ、ペイエリンク、ヴィノグラドスキー、クルイヴェル

改訂新版

腸内細菌

II各 論(1) *Salmonella* 属 第3版

坂崎利一 著 A5判 230頁 定価4,000円(送料300円)

著者がその該博な知識を傾注して集大成した「腸内細菌学」の *Salmonella* 属編。

1980年の国際細菌名承認リストの発効と分類命名規約の改正に伴い、国際腸内細菌委員会のサルモネラ小委員会は1983年によくして *Salmonella* の分類、命名のみならず、血清型にまで及ぶ大変革を行った。

本書は *Salmonella* の新しい分類と命名、血清型リストをすべて網羅した本邦唯一の成書である。腸内細菌学者はもとよりその関連領域の研究者に必読の書である。

■主要目次■

定義／分類 (分類の現状、種および亜種、血清型、日常における *Salmonella* の菌名の記載)／培養上の性状／生化学的性状 (亜群I、亜群II、亜群IIIaおよびIIIb、亜群IV、亜群V)／血清学的性状 (O抗原、H抗原、M抗原、Vi抗原、線毛抗原)／化学型／*Salmonella* の抗原構造表 (Kauffmann-White 抗原構造表、アルファベット順 *Salmonella* 血清型名リスト)

I概 論 110頁 定価2,000円(送料250円)

腸内細菌の定義／分類／生化学的性状／抗原

III各 論(2) 190頁 定価3,300円(送料300円)

Escherichia・*Shigella*・*Edwardsiella*・*Citrobacter* 属

IV各 論(3) 186頁 定価3,400円(送料300円)

Klebsiella・*Hafnia*・*Enterobacter*・*Serratia*・*Proteus*・*Morganella*・*Providencia*・*Yersinia*・*Erwinia* 属

臨床と治療のための医学微生物学〈第二版〉

V.Lorian 編／坂崎利一 監訳

B5判 496頁 図100 表105

定価14,000円(送料600円)

■主要目次■

医学微生物学／菌種鑑別の議論／好気性グラム陰性桿菌の臨床的意義／嫌気性菌の菌種同定の意義／臨床微生物検査室の免疫抑制患者に対する配慮／*Pseudomonas* 同定方法、種別の意義およびヒトに対する病原性／ミコプラズマ／クラミジアおよび感染症におけるその意義／血液培養—新しい培地と技術の評価／創傷の微生物学／喀痰の細菌学／緊急細菌検査／細菌学的診断テストの予測値／微生物学的評価を行うため

の系統的方法／抗生物質の監査／試験管内薬剤感受性テストは感染症患者の化学療法の効果を正確に予測しうるだろうか／抗生物質感受性テスト／抗菌域：抗生物質の試験管内活性についての評価の試み／抗生物質の血中濃度の意義／患者の治療における微生物検査熟達度テスト／小児科細菌学の特殊性／現在の微生物学におけるELISA(酵素抗体法)の意義



近代出版 〒150 東京都渋谷区渋谷 1-10-1
☎03(499)5191 振替 東京9-168223